

安芸高田 歴史紀行

昭和12(1937)年

「吉田農学校概観」

【第3回(全3回)／花田植競演大会・町民運動会編】

(吉田町吉田)



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 古川 恵子

あの日の記憶は 写真の中にII[16]

吉田農学校の生徒募集のため昭和12年に制作された映像「吉田農学校概観」を3回にわたり紹介しています。2月号では農学校、5月号では吉田のまちの様子。最終回の今月号は郡山グラウンド(現吉田小学校グラウンド)で行われた花田植競演大会と町民運動会です。

花田植は、はやし田とも呼ばれ、田植え唄と囃に合わせ早乙女が苗を植える中国山地で古くから続いていた田植行事です。大地主などが催し、多くの見物人を集め、農村の娯楽の一つでした。これに着目した吉田町商工会が昭和7(1932)年、郡山グラウンドで第一回の花田植競演大会を開催すると、年々盛り上がりを見せました。映像は次に町民運動会に変わります。競技はおたまりレー、一斗缶たたき(スイカ割りの要領)など。多くの見物人、賑やかな応援風景、真剣にがんばる参加者、みんなの笑顔が印象的です。

「吉田農学校外観」は歴史民俗博物館第2展示室で放映しています。

参考 『げいぶグラフ』28号(菁文社)

花田植競演大会



大会には高田郡内外の団体が参加。技を披露し、競った



美しく飾られた花牛も登場。会場は参加者と見物人で賑わう



開会式の様子。神事、獅子舞、優勝旗返還などが行われていた

町民運動会



声援を送る見物人たち



着物にかっぽう着姿で綱引きをする婦人会の女性たち



リレー映像の背後の建物は昭和11年に完成した講堂(昭和59年まで使用)

航空設備機器製造者

安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組む挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

この工場が地域を元気にする 一翼を担えたら嬉しいです

有限会社 田中インダストリー
代表取締役

田中 勝義さん

納期は絶対守る！
信頼が一番大切です



向原工場 大型車も出入りしやすい広い道路に面した建物を改装。増築工事も進んでいます。

個性豊かなスタッフ みなさん様々な資格取得にチャレンジ。仕事にやりがいをもって取り組んでいます。

次期後継者 「時代のニーズに柔軟に対応していきたい」と次期代表の田中誠さん。バンドマンとしても活躍。

向原工場が8月から本格稼働
若い人がやりがいを持って働ける場所に

三菱重工広島製作所の観音工場、江波工場のほか、東広島にも工場を構える(有)田中インダストリー。クレーンや航空設備機器などの製缶、溶接、据え付けなどを行っている企業です。企業としてISOや航空関係の特殊な資格を有しているだけでなく、社員にも一級建築士、溶接、クレーン、フォークリフト、玉掛けなど様々な資格にチャレンジさせているのも特徴的。代表取締役の田中さんは、「これからは資格の時代。自分たちで多くの作業をすることができれば、幅広く仕事を引き受けることができる。取引先にとってもメリットが大きいんです」と話します。今年4月には既存の工場に加え、空き家になっていた建物を活用して向原町にも工場を構えました。工場の設営には、市の企業立地奨励金制度を活用しています。「工場の前の道路の広さ、使いやすさ、動線のよさに加え、奨励金制度が大きな後押しになりました」と田中さん。新型コロナウイルスの影響もあり、しばらくの間、本格的な稼働ができていませんでしたが、8月から飛行機の部品製造がスタート。今後は同社の拠点となるマザー工場になる予定で、受注するほとんどの工程をここでを行います。空き家を利用して企業誘致に結びついた成功例。今後は、地元の方の雇用も積極的に進めていく予定です。技術や人間性も育てるのが同社のモットー。地域活性化の一翼を担います。